

# 未来



全労協・郵政産業労働者  
ユニオン長崎中野支部  
機関紙「みらい」  
NO. 3794  
17年10月6日(金)  
Fax 095-828-1953

## 選挙の争点は戦争か否かだ

おはようございます。

総選挙だ。テレビや新聞は「安倍の身勝手な解散だ」と批判し、「朝鮮半島危機の中に選挙どころか」という論調もある。

しかし解散したのは「いまなら勝てる」と自民党が判断したからだ。では安倍の胸中はそれだけか。彼は「戦後体制の「掃」を言い続けてきた。具体的には改憲だが、いまは与党が改憲に必要な三分の二を衆参両院で保持している(戦後初)し、任期はあと一年以上もあつた。

問題は、解散の前に安倍がアメリカへ行き、なにを話し合ったかだ。その後の日米は、北朝鮮の挑発と『圧力強化』で一致している。結論をいえば「戦争も辞さず」である。

いまだ核戦争とは非現実的だろうか。戦争となれば、誰もか座して死を待たない。もっている武器はみな使う。これは常識である。これを現実化させるのが、挑発と圧力強化一辺倒の外交政策である。

安倍の国民に信を問う点は、「北朝鮮と戦争をする」との一点に尽きる。なぜなら、かりにだが、今後実際に起きる戦争は、現在の日本の諸矛盾を一気に解決する手段だからだ。(その意味では森友、加計学園問題は戦争より小さいと言った自民の幹部がいたが、戦後体制の「掃」とは、次



の戦争までの戦前回帰の入り口に他ならないし、起きてしまふ戦争は、それまでの出来事を「過去」とし、全てに免罪符を与えるからだ。

では歴史的に、戦争の危機に日本は総選挙をしたことがあるのか。今から百年前の第一次世界大戦に日本は、日英同盟で参戦する。ちなみに日本との同盟はこの日英同盟での第一次世界大戦参戦と日露戦争。さらには第二次世界大戦の端緒となった日独伊の三国同盟と、現在の日米同盟の三つしかない。同盟は戦争のために結ぶのだからだ。

日本はこの第一次世界大戦中に二度の総選挙を行っている。保守二大政党時代で、争点は戦争か否かではなく、国は安心して選挙が行

えた。今回の安倍の総選挙は、民進党つぶしのネライだったがその後、希望の党の拡大での保守二大政党化の流れは想定外だっただろう。

よく日本の資本主義を「山の上までウオッシュレス」と皮肉るが、お尻洗淨のトイレが山の上まで普及し、新たな産業がない状態を風刺する言葉だ。最後の新天地のアフリカの分割が終われば、地球上には資本は行き先がない。だから物を作る資本主義から情報を作る時代(OA、ICの時代)へと転換し、いまは金が金を生む金融資本主義の

時代が変わったのだが、その次が見えない。資本主義は自由経済である。誰もかれも生産を拡大すれば物はあり余る。これが生産過剰といって、恐慌の根となる。資本と資本が戦い強いものが勝つが、それも限界がある。こうして世界経済は壁にぶつかりアメリカは「国主義に舞い降り、その支配が終わったのだ。しかし世界中にはまかれた金(ドル札)は金(きん)には換えられない。破たんすればただの紙くずだ。資本も独占化だ。日本でも六大銀行は三大銀行へ再編され、大企業は次々と合併をしている。危機を感じ、最後の勝負に備えているのだ。危機の証拠だ。日本は世界経済史の中で初めてという、三〇年間の長い低金利時代を続けている。これを資本主義の終焉という経済学者もいるし、日本が最初につぶれる先進国だともいう。

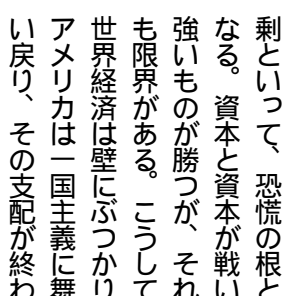
国民などが預けた預金(千兆円)の本来、受け取れるべき五%の利息(五十兆円)を

金融資本がピンハネし、一方国は国債などの国の借金千兆円の利子をゼロ金利で支払わず、借金を踏み倒している。企業は内部留保で四百兆円も抱え、新たな投資先を、億分の一秒単位での為替相場取引や株式投資で、その場をしのいでいる。こつした経済危機を解決する方法として過去は戦争であった。確かに国対国の戦争で覇権を争い、国境と権益を再分割する。資本はこの間の戦争特需で暴利を得る。これが資本の狙つ、戦争の本来の目的であり、そうして戦争は度々起きた。今は第三次世界大戦の直前という時代だ。どの国の誰がその引き金を引くのかだ。



もう一度ではなぜ戦争が起きるのか。固くいうと、戦争は経済危機が政治危機を招き、政治危機が軍事危機に転じるのである。具体的にいうと二〇〇八年のリーマンショックで世界は大恐慌時代が始まる。先進国では経済の成長が望めないのだ。資本をなげに投資し、どう利益を拡大するか、展望がない。

あり、改憲派である。橋本維新とともに非自民をいうが、実態は自民の補完勢力であり、欧米に吹き荒れる自国ファースト・排外主義の党なのだ。



こつした経済危機を解決する方法として過去は戦争であった。確かに国対国の戦争で覇権を争い、国境と権益を再分割する。資本はこの間の戦争特需で暴利を得る。これが資本の狙つ、戦争の本来の目的であり、そうして戦争は度々起きた。今は第三次世界大戦の直前という時代だ。どの国の誰がその引き金を引くのかだ。

時代が変わったのだが、その次が見えない。資本主義は自由経済である。誰もかれも生産を拡大すれば物はあり余る。これが生産過剰といって、恐慌の根となる。資本と資本が戦い強いものが勝つが、それも限界がある。こうして世界経済は壁にぶつかりアメリカは「国主義に舞い降り、その支配が終わったのだ。しかし世界中にはまかれた金(ドル札)は金(きん)には換えられない。破たんすればただの紙くずだ。資本も独占化だ。日本でも六大銀行は三大銀行へ再編され、大企業は次々と合併をしている。危機を感じ、最後の勝負に備えているのだ。危機の証拠だ。日本は世界経済史の中で初めてという、三〇年間の長い低金利時代を続けている。これを資本主義の終焉という経済学者もいるし、日本が最初につぶれる先進国だともいう。



戦争はこつして起こすというドイツのヒトラーのNO二の軍人の言葉は「開戦は簡単だ。外国が攻めてくる」といえばいいのだ。ドイツにおける平和憲法のワイマール体制を壊した男だ。胸に刻むべし。日本における戦後の平和憲法時代は、この次の総選挙で終わるのか。安倍が問うているのは、この選択なのだ。小池には希望はない。がんばれ、リベラルと護憲党なのだ。

国民などが預けた預金(千兆円)の本来、受け取れるべき五%の利息(五十兆円)を

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員の正社員化を。めざせ、均等待遇、なくそう差別！ ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1 集-山本, 2 集-向井, 3 集-山田, 郵便-高田, ゆうちょ銀-上筋, 他支部・分会の役員へ。